

上田市教育委員会 7 月定例会会議録

1 日 時

平成30年7月19日（水） 午後3時00分から午後4時05分まで

2 場 所

上田駅前ビルパレオ5階 上田市教育委員会 第一会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	峯村 秀則
教育長職務代理者	北沢 秀雄
委 員	平田 利江子
委 員	横関 妙子
委 員	綿谷 憲一

○ 説 明 員

中村教育次長、池田教育参事、石井教育総務課長、高木学校教育課長、小林生涯学習・文化財課長、唐澤人権同和教育政策幹、池田スポーツ推進課長、青木丸子地域教育事務所長、宮崎真田地域教育事務所長、宮越武石地域教育事務所長、武捨第二学校給食センター所長、竜野中央公民館長、山口上野が丘公民館長、滝澤上田市立博物館長

1 あいさつ

2 協議事項

(1) 平成29年度教育行政に係る点検及び評価について（教育総務課）

○資料1-1により石井教育総務課長説明（要旨）

1. 概要

教育委員会は、教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価等を行うとともに報告書を作成し、議会へ提出することを法律により義務付けられている。教育委員会では、「上田市教育行政評価懇話会」を設置し、有識者である委員から評価・提言をいただき、事業の改革・改善に役立てている。委員については、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見が期待できる7名に就任を依頼した。

2. 対象事業

点検及び評価等の対象事業は、市の目標管理制度において、毎年設定している重点事業(平成29年度は17事業)とする。

3. スケジュール

3月の定例会において、事業名、当初目標、具体的な取組、目標の達成状況、総合評価までご協議されている。7月において懇話会を2回開催し、委員の皆様からご意見、ご提言をいただいた。それらをまとめたものとして、お配りした資料をご覧いただきたい。その際に、委員からいただいた意見に対しての教育委員会の考え方が記載されている。また、今後の方針等を中心にご意見をいただきたい。

峯村教育長

それでは各課から説明を端的にお願いしたい。

○資料1 - ①により高木学校教育課長説明（要旨）

事業名「学力の定着・向上」について。委員からの意見は、各学校が参考にできる取組を把握し、教員と会議を重ね、市内の学校に広めていくこと。子ども、家庭、教員の意見の把握に努め、内容や取組方法の改良を重ねること。家庭に対してこの取組の目標等は、保護者にしっかりと伝えることなどの意見をいただいた。これに対して教育委員会は、過去の取組状況や保護者、教員の把握に努め、効果的な環境づくりや児童生徒の評価等の状況を全部冊子にするとともに、保護者に対しても教育委員会へ協力を求め、学力向上に繋げるために、学校のさらなる有効活用が図られるよう、学力向上委員会小委員会で協議、検討をし、平成31年度の使用に向けてより改良された「紡ぐ」の作成を進める方針である。

○資料1 - ②により高木学校教育課長説明（要旨）

事業名「英語教科への対応とコミュニケーション能力の充実」について。平成32年度から小学校外国語（英語）教育に対し、円滑な移行を目指し、平成30年度からの全小学校先行実施に向けた取組を行うことが当初目標である。また、今後の課題等については、今後明らかになっていくと思われる課題の解決と、学級担任の指導能力向上を図る必要がある。委員からの意見は、学級担任とALTとの共同的なチームティーチングは英語の専門性を高めることから、全ての職員が参加できるような研修会等を開催し、教職員の支援を実施すること。また、学校の授業以外でも英語に触れる機会を作る必要があるとのご意見をいただいた。それに対して、2年間の先行実施期間を教員が自信をもって授業ができるようにするため、公開授業や外国指導者による研修会を通じ、教員の指導力向上に努めるとともにALTを小学校へ定期的に配置し、普段から英語を楽しめる環境づくりを進めてまいりたい。

○資料1 - ③により高木学校教育課長説明（要旨）

事業名「特別な支援を要する児童生徒への支援」について。小中学校の全特別支援学級に、タブレットパソコンの使用環境と整備を行った。教育委員会として、タブレットパソコンの利用方法・指導方法に関する職員研修の実施を行った。今後の課題、委員からの意見について、環境整備が前倒しで完了したことを評価する。支援が必要な児童生徒は社会に生きていくという生涯を通じた支援を必要とすること、職員研修を継続的に実施することが必要である、とのご意見をいただいた。これに対する考え方として教育委員会は、タブレットパソコンを効果的

に活用し、義務教育期につけるべき基礎学力の定着に向けて、児童一人ひとりに合った支援をしていく。特別支援学級以外の教職員にも、研修を行っていくこと、並びに、周囲の大人や子どもの理解を求めていく必要があることを考えている。ICT支援員による機器の操作方法と障がいの理解を深めるための研修を継続実施していくとともに、授業に役立つソフトの情報提供に努めていきたい。

○資料1 - ④により石井教育総務課長説明（要旨）

事業名「食育の推進・充実に向けた環境の整備」については、学校給食施設の整備に向けた取組である。委員からは地場産物の活用について、調理方式や施設規模に関わらず、引き続き地場産物の活用を大切にした学校給食が提供されることを願うとのことのご意見があった。この意見に対する考え方として、学校給食における地場産物の活用については、地域食材への理解をはじめとする高い教育的効果が期待されている。新しい施設の建設に関する検討においても、地場産物を積極的に活用できるよう農林部など関係機関との連携を図り、これまでの取組を継続していく。今後の方針等については、市長からの依頼を受け、現在の施設方針に関する再検討を早急に進めていきたい。

○資料1 - ⑤により高木学校教育課長説明（要旨）

事業名「放課後児童対策の充実」について。当初の目標は放課後児童クラブ等の安定的な運営と児童の安全な施設利用の維持をするために、支援員等の処遇改善(給料の増額)を実施する。これについては、平成29年度の予算で職員数、就労形態(常勤又は非常勤)、勤続年数に応じて処遇改善額を決定し、指定管理料に上乗せして支払うことができた。委員からは、国・県の補助金に関わらず、必要に応じて実施されるべき事業であるご意見をいただいた。教育委員会としてはこの取組を行い、継続していくためには安定的な運営と児童の安全な施設利用の維持が重要である。処遇改善などの取組を継続していくため、使用料の改正等、安定した財源確保について検討していきたい。今後の方針等について、使用料の改正等を含めて財源の検討をしていく。

○資料1 - ⑥により石井教育総務課長（要旨）

事業名「小中学校のあり方の検討」について。当初の計画どおり懇話会を開催し、先進事例等の講演を聞いたり、先進地視察をする中で小中学校のあり方の検討の提言をいただき、目標を達成できた。先進事例を参考にしながら、さまざまな視点から検討を行って議論を深められた。委員からの意見は、非常に難しいテーマがあることと、昨年度の懇話会で提言をいただき、今年、来年の2か年で検討を進め、次世代を担う子どもたちをしっかりと育むことができる教育の環境づくりに向けて、検討が重ねられることを期待する。教育委員会の意見として、教育を取り巻く現状と課題を踏まえ、さらに小中学校施設が耐用年数を迎える時期に入ってきたので、ソフト面・ハード面の両面から検討を進めていく。また検討にあたっては、保護者、地域、教職員などの皆さまからご意見をいただきながら、平成30年度から2年間を策定期間として有識者による検討組織「(仮称)上田市小中学校のあり方検討委員会」を設置し、平成32年度以降、基本方針が出た中で地域の方へ話をしていきたい。

峯村教育長

これまで、上田市支援プラン6つの事業を申し上げた。何かご意見、質問等をお願いしたい。

○質疑

北沢委員

1-⑥の小中学校のあり方の検討についてだが、この懇話会は有識者による検討組織「(仮称)上田市小中学校のあり方検討委員会」において検討を進めていくという方向は示されているが、特に有識者の委員の選定というものをどのように決めていくかを慎重に考えていただきたい。結論ありきで進めていくことだけは避けてほしい。例えば、方向が、義務教育学校を目指してすべての学校を義務教育学校にしていくというような、その方向での委員選出はやめていただきたい。

石井教育総務課長

委員の選定についてはこれからとなるが、前回の懇話会でも北沢委員からご指摘いただいたように、偏った人選は好ましくない。それを考えながら進めていきたい。

峯村教育長

北沢委員よろしいか。

北沢委員

ぜひお願いしたい。

平田委員

1-①から1-③の事業について、学校訪問の様子からお話したい。まず、1-①の活用については、各学校でばらつきがある。グランドデザインに明記されている学校もあり、学校全体で前向きに取り組んでいただいている様子も拝見している。今後の方針にあるように、効果的な学校事例を具体的に発信していただく、ここの部分が大事だと思う。ある先生から、前任の学校で活用に力を入れたことにより家庭学習につながり効果が上がったと聞いた。ぜひ効果的な活用について、早急に分かる範囲で発信していただきたい。

1-②で大事なものは、ALTと協働した授業づくりであると考えている。教員の指導力向上はもちろんだが、課題は担任教諭とALTが具体的な授業づくりを話し合う時間を確保できていないことだと感じる。教員が多忙化するなかで難しいことだと思うが、子ども達が英語を楽しめる授業の環境作りを働きかけてほしい。また、児童とALTと一緒に給食を楽しむなど、学校生活において英語に触れる楽しさを児童が感じられるような取り組みも大切である。ALTが複数の学校を掛け持ちすることは大変なことだと思うので、ALTへの配慮もお願いしたい。

1-③のタブレットの有効な使用について、教師の意識により各校の使用状況に差がある。生徒がタブレットを見ながら集中している姿を拝見し、効果が高いものだと感じる。また「通常学級時でもタブレットを使用することで授業参加ができるように周囲の子どもや大人への理

解を求めていく」この文言を大切にしていきたい。

その他、1-④の学校給食のアレルギー対応についても早急な対応をお願いしたい。

北沢委員

1-①については、生活・学習ノート「紡ぐ」の検証を行うとあるが、その検証の中身を大事にしてほしい。例えば、県教委でも働き方改革（タイムカードやICカード導入等）によって各学校の超過勤務時間数がどれくらいに減ったとか、改善が見られた学校が何パーセントになった等、それらの手段の検証である。何のためにやっているのか。働き方改革の主な目的は、授業改善によって子どもの学力定着のためではないのか。生活・学習ノート「紡ぐ」が、どれだけ浸透しているのか、何パーセントの子どもが使っているのか、その手段を検証しても意味がない。初期の段階ならまだしも、目的は、生活・学習ノート「紡ぐ」によって、家庭での学習時間数が増えたとか変わらないとか、このノートを使うようになって、子どもたちが意欲的に授業を取組むようになったなど、そういうことで、このノートは検証する意味がある。本来の目的にきちんと立ち返って検証してもらいたいと思う。当然、タブレットも、何校の特別支援学級に何パーセント、何台配置したから素晴らしい成果が上がった、など、そういうことが目的ではないと以前から言っている。タブレットを使うと、子どもたちが意欲的に授業を取り組むようになったとか、子どもたちに学力が付いたとか、そういう検証が大事である。初期の評価で終わることがないように取り組んでいきたい。

○全員了承

○資料2-①により石井教育総務課長説明（要旨）

事業名「学校施設のあり方の検討」について、主に施設整備の関係で長寿命化計画を中心に学校施設台帳を作成することが当初目標である。検討するための基礎資料となる具体的なカルテの作成を平成29年度に作成し、目標どおり達成することができた。委員からの意見では、カルテのほかにも老朽化の状況やいろいろな問題点を整理した中で、カルテを作成した方が良いのではないかという意見をいただいた。意見に対する考え方は、そのようなことを踏まえて平成32年度までに長寿命化計画を策定するよう要請されている。

○資料2-②により石井教育総務課長説明（要旨）

事業名「小中学校施設の計画的な改築・改修」について、小中学校のあり方の研究が進められているが、施設修繕については確実に進めていきたい。また、災害時の避難場所として使用されることを踏まえ、計画的に維持・修繕が行われる必要がある。エアコンの整備についても検討を進めていきたいという意見をいただいた。意見に対する考え方は、修繕については、職員が学校に出向いて状況に応じ対応している。避難場所の機能についても考えていくこと、またエアコンについても、学校の教室のことを考えながら検討していきたい。

○質疑

横関委員

学校の耐震化は三中ですべて終わるということだが、これから長寿命化、若しくは改築になると思うが、箱物を建てるということの前に、学校の中の設備はどうなのか、危ないものはないか、学校は安全安心でなくてはならない。昨今の暑さから考えると、エアコンは絶対に入れてくなくてはいけないと思う。今日も四中へ行き、3階は38度でとても暑く、いられる状態ではなかった。その中で子どもたちや教員は心身共に疲れてしまっている。平成30年度以降、順に進めるのではなく、命に関わることは早急に計画して進めてほしい。AED（自動体外除細動器）も付いていない学校もある。AEDは命を守る必要な医療機器なので、早急に入れていただきたい。その他、網戸もない学校がかなりある。普段生活するなかで不備なところがある。

まず、そういう細かいところからやっていただき、大きいところを進めていってほしい。エアコンを付けるにしても太陽光発電を付けることもあるので、ぜひその点も検討していただき、安全安心な環境づくりに努めてほしい。

峯村教育長

ほかにいかがか。なければよろしいか。

○全員了承

○資料3-①により小林生涯学習・文化財課長説明（要旨）

事業名「史跡等整備推進と文化財の保護と活用」について、消滅や損傷の恐れのある有形文化財を保護して、活用しながらより良い姿で後世に継承するとともに、担い手が減少しつつある無形文化財の後継者育成を支援することが当初目標である。委員からの意見として、無形文化財は、有形文化財に比べると広く市民に知ってもらう機会が少ないことから、発表の場を設けるなどの取組を検討されることを期待する。文化財の保存等の取組については、学芸員の育成が不可欠と考える。上田市には多くの文化財があるが、これを保存、活用していくためには、地域の協力が不可欠であることから、自治会など地域との協力のもと、貴重な文化財を後世に残す取り組みが進められることを望んでいる。意見に対する考え方として、無形文化財については、祭礼等の日程を広報うえだ等に掲載しながら周知に努めているが、今後も各保存会と協議しながら一堂に会していく機会等を設けられるよう検討していきたい。今年度、2名の学芸員を専門職で採用した。さまざまな研修会等に可能な限り参加して、専門職を取得できるよう資質向上に努めていきたい。文化財を保存・活用していくために、地域の人々の理解と協力が必要なので、今後も学校などと連携を図るとともに、「文化財 de 文化祭」など子ども向けのイベントを通じて周知と活用に努めてまいりたい。

○資料3-②により滝澤市立博物館長説明（要旨）

事業名「郷土の文化・歴史、偉人の業績を知る機会の創出」について、企画展及び講座等を計画どおり行い、資料の調査研究を行った。今後の課題等は、ハード面の劣化、老朽化も著しく、新たな施設整備を検討する必要がある。委員からの意見として、学芸員の採用や職員研修

による資質向上に取り組んでいることを評価する。各種の有意義な企画展等が実施され、より多くの市民や観光客に郷土の文化・歴史等を提供するため、特にインターネットを活用した情報発信において、観光分野や文化財がリンクして効果的な取組になるよう研究されることを期待したい。意見に対する考え方として、学芸員の資質向上をつうじたソフト面の充実とともに歴史・文化の多彩な情報を利用者に還元していきたい。

○資料3-③により小林生涯学習・文化財課長説明（要旨）

事業名「『上田市歴史文化基本構想』の策定事業」について、当初目標は、地域に存在する文化財を活用するためのマスタープランとなる「上田市歴史文化基本構想」の策定事業を平成28年から30年まで進めていくものである。今後の課題について、「日本遺産」への申請を考慮すると、平成30年12月末までにスピード感を持って取組む必要がある。委員からの意見は、歴史文化基本構想の策定に向けた悉皆調査が行われているが、市民に公開することができれば、市民の文化に対する関心の醸成につながる大きな成果であると考え。 「日本遺産」認定についても地域と協力し文化財に関する地道な調査が進められることを評価する。この考え方に対して、「歴史文化基本構想」については、今後、策定に向けて作業し、多方面の意見を聴取するとともに進めてまいりたい。文化財悉皆調査についても12月までに行い、「上田市歴史文化基本構想」を策定する。また、文化庁と協議しながら、「日本遺産」認定申請の準備作業を進め、来年1月には申請を行う予定である。

峯村教育長

3-①から3-③まで質問や意見をお願いしたい。

平田委員

3-③の「日本遺産」の認定について、市民にはどのような形で知らせていくのか。「歴史文化基本構想」が策定してからになると思うが、日本遺産の申請は市民の皆さんにとって大変興味深いことだと考える。

小林生涯学習・文化財課長

「歴史文化基本構想」はホームページ等で発信していくが、「日本遺産」については、まだどのような形にしていくのか、案も模索中である。申請するまでは各関係者から意見を聞き、認定がされた段階で発信されていくと思う。その後の活用についての意見は、市民の方たちの意見が重要になってくるので認定された後に考えていきたいと思う。

平田委員

今の段階では、市民は周知していないのか。

小林生涯文化財課長

広報等で発信しているわけではないので、公には知らないと思う。どこまで具体的にでてきているかわからないので、発信する段階ではない。

平田委員

認定されない場合、発信されずに終わってしまうのはもったいないと思う。認定されなくても発信はお願いしたい。

小林生涯学習・文化財課長

了解した。

北沢委員

今の意見で付け加えたいことであるが、大変面白い事業だと思う。古民家や仏像など魅力的な素材が集まっている。ぜひ、上田市の魅力と結び付けて発信していただきたい。また、ネーミングについては、「歴史文化基本構想」は堅いので、再考してほしい。

○全員了承

○資料4-①により小林生涯学習・文化財課長説明（要旨）

事業名「社会教育施設の計画的な整備」について、当初目標は、生涯にわたって学び、その学びを活かせる、生涯学習の整備を進めることである。西部公民館施設整備、神川地区公民館の整備、「上田市図書館基本構想」の策定である。委員からの意見は、西部公民館をはじめ、ハード面については、整備されてきた。公民館同士の情報交換を大切にして、より公民館事業が展開されることを期待する。図書館整備については、事業着手までには一定の時間を要すると考えるが、近隣市町村の図書館との連携など、利用者の利便性を考慮した運営が継続されることを期待する。意見に対する考え方として、市内には9公民館があり、それぞれの地域課題、社会課題解決に向けた特徴的な講座等を展開している。引き続き、充実した活動を目指し、地域の学習拠点としての役割を果たせるよう努めていきたい。また、図書館についても、上田市・東御市・長和町・坂城町・青木村の5市町村で、上田地域図書館情報ネットワーク（愛称エコール）を構成し、どこの公共図書館でも、図書の予約・貸出・返却ができるようになっている。今後もこのシステムの更新を図るなど、より連携を深めた運営に努めていきたい。今後の方針等について、神川地区拠点施設整備は来年4月のオープンに向けて建設を行い、上田図書館の整備についても、「第二次上田市図書館基本構想」に基づき、検討を進めていく。

○資料4-②により小林生涯学習・文化財課長説明（要旨）

事業名「地域と連携した学校を支援する取組の充実」について、地域と連携した学校を支援する取組が持続可能になるよう、コーディネーターの発掘・育成、統括コーディネーターを配置し、研修会等を開催する。コーディネーター同士の情報交換を行うことが当初目標である。委員からの意見では、この取組が持続可能な取組となるように統括コーディネーターを中心に各種の事業が進められていることを評価する。市内の小中学校は、36校と多いことから、より充実した取組ができるよう、統括コーディネーターの複数配置について検討されることを期待する。この意見に対する考え方として、地域が学校を支援する取組が持続可能な取組となるよう、統括コーディネーターを中心に今後、研修会・交流会などを行う中で、人材発掘を進め

ていく。今後、さらに事業・活動が充実するに従い、統括コーディネーターの役割が重要となることから、組織の体制整備とともに、統括コーディネーターの複数配置を検討していきたい。今後の方針等について、信州型コミュニティスクールが実効性のある持続可能な取組になるよう支援していく。ホームページを配置し、周知を図っていく。ボランティアのネットワークづくりとして、情報交換会などを行う中で組織化、人材発掘を行ってきたい。

○資料4-③により唐澤人権同和教育政策幹説明（要旨）

事業名「人権同和教育・啓発の推進」について、人権施策基本方針に基づいて、学校、家庭、地域、企業に対する人権同和教育・啓発を推進し、より一層の人権意識の向上を図ることである。目標の達成状況として、学校、地域、企業等全体で講演会と研修会を開催し、延べ36,800人が参加していただいた。委員からの意見として、学校・地域等で人権感覚を育てる大切な取組が行われていることを評価する。有意義な研修会をピックアップし、より多くの人に参加してもらえるように取り組まれることを期待する。研修会の参加者が地域住民に研修内容を効果的に伝えるため、ワークショップ形式を取り入れるなどの仕組みづくりについても研究されることを期待する。意見に対する考え方として、人権感覚を育てるため、新しい情報を取り入れ、講座やテーマ等に活かし、講座運営に工夫を凝らしてまいりたいと考えている。有意義な研修会や、各種人権問題を扱った研修会の情報を共有された情報を活かした講座運営を行い、多くの方に参加していただけるような研修会の開催を目指していきたい。人権啓発リーダーの方には、人権啓発担当者研修会でワークショップ形式を体験いただいている。参加者が所属団体に持ち帰り、ワークショップ形式を取り入れた研修会が開催できるよう研修会等を工夫していきたい

○質疑

北沢委員

4-①上田図書館の整備について、このことについては以前から話が出ている。一定の時間がかかり、すぐに箱物ができるとは想定していないが、いろいろな面から検討していただきたい。保育園、幼稚園、ショッピングモール等と併設している図書館を見てきたが、よさもあるが問題点もある。ここに書いてあるように、地域の「学びの拠点」としての役割を果たせるよう、さまざまな方向から検討していただければと思う。

横関委員

4-①委員からの意見で、公民館同士の情報交換を大切にするとあるが、そこから市民に向かってどのように発信していくのか、他の公民館ではどのように発信しているのか、その方法もどのようにしていくかということもあるので、活動が幅広く市民の皆さんに分かるような取組をしていただけたらいいと思う。4-②の学校コーディネーターについて、普通のボランティアの方がコーディネーターをやっている学校もある。そういう方たちは印刷代等を自費でやっている。公民館でやっているところもあるが、そういう人たちの立場を今後どのようにしていくのか、学校に配置していくのか、そこを考えて検討していただきたい。

峯村教育長

ほかにはないか。なければ次をお願いしたい。

○全員了承

○資料5-①により池田スポーツ推進課長説明（要旨）

事業名「スポーツ施設整備の推進」について。市民のだれもが、気軽に利用できるスポーツ施設を活用し、生活の中にスポーツを定着できるよう、施設の整備と充実を図ることが当初目標で、今年の5月には施設整備の計画策定ができたところである。委員からの意見は、スポーツ施設の維持・整備は必要であるが、一方で、現状の施設数を維持することは困難ではないかと考える。利用実態を踏まえ、今後の方向性を検討する必要がある。意見に対する考え方として、利用実態については施設ごとに把握しており、全体として施設利用者は減少傾向にある。総合的な見地から施設の整備方針を検討していくことである。今後の方針として、引き続き関係団体・部局との連携を行うとともに、スポーツ施設整備計画で定めた更新時期や費用等を踏まえ、有利な補助金等の活用を行うものとする。

○資料5-②により池田スポーツ推進課長説明（要旨）

事業名「市民スポーツへの関心や参加意欲の促進及び生涯スポーツ社会実現のための施策」について。それぞれのライフステージに合わせ、スポーツやレクリエーションに親しむことのできる環境づくりを進め、市民が主体となった生涯スポーツ社会の実現を目指すことが当初目標である。委員の意見は、「夢の教室」で、児童が目を輝かせて参加していたことが印象的であり、貴重な取組であると評価する。意見に対する考え方として、「夢の教室」は、今年度も当初の予想を超える要望があったことから、補正予算を計上し、可能な範囲において実施校を追加した。今後も、アスリートの交流を通じて、スポーツの関心が高まるよう、児童の輝かしい将来に向けたキャリア教育の一環としても位置付け継続していきたいと考える。

○資料5-③により池田スポーツ推進課長説明（要旨）

事業名「総合型地域スポーツクラブの活動支援」について。「総合型地域スポーツクラブ」で地域の市民交流の活性化を目指すことが当初目標である。委員からの意見は、スポーツクラブの連携事業が実施に至ったことについて評価する。総合型スポーツクラブの活動支援を通して、市のスポーツ振興が図られることを期待したい。この意見に対する考え方として、平成29年度の取組のきっかけとして、スポーツクラブの連携・交流が進展してきているものとする。スポーツイベントを開催する予定であるなど、引き続きの活動支援を行っていく。

峯村教育長

5-①から5-③までの質問、意見をお願いしたい。

○質疑

横関委員

5-①について、上田市立地適正化計画の中にある都市機能誘導区域には、上田の体育館が人口の密集している区域にある。コンパクトシティにするのであれば、人が集まるところに体育館を建てていただいた方が良いのではないかと思います。

池田スポーツ推進課長

お城の中にある体育館は、計画の中で申し上げたとおり、城跡以外の場所になっている。体育館をどこへ持っていくかは、これから検討して決めていくところである。立地適正計画というのは、都市計画課の方でつくり、基本的には用途地域のところは当然のことながら皆さんがお住まいのところである一方で、周辺の白地の地域についても同様の考えをしている。どこへ持っていくとは直接リンクしないが、その点を考慮しながら進めていきたい。それなりの体育館をつくる予定なので、県大会、全国大会等が開催できるような建物を考えると交通状況が良い所が重要になってくる。見る方とすると、例えば駅前に近い場所がいいとなるが、やる方となると、電車ということはなくバスや車で移動となる。そういったことを踏まえながら、場所の検討をしていきたい。

横関委員

了解した。

平田委員

5-②の課題にあるラグビーワールドカップ開催に向けたラグビー競技の普及拡大であるが、来年行われるワールドカップへの市民の関心が今一つのような感じがする。

池田スポーツ推進課長

直接の担当は、交流文化スポーツ課の方でやっている。ただし、ラグビーの普及という面では教育委員会としても小中学校を対象に進めていきたい。実際に見に行っていたら面白い競技であり、公認キャンプ地に選ばれなかったが、今後も盛り上げていきたい。

○全委員 了承

3 報告事項

(1) 長野県日中友好都市中学生卓球大会について（スポーツ推進課）

○資料2により池田スポーツ推進課長説明（要旨）

長野県日中友好都市中学生卓球大会が8月に開催する予定である。趣旨について、長野県と河北省友好提携35周年を記念して、県内と中国の各都市の友好提携している中学生卓球選手団を招き、卓球交流大会を開催することになった。昨年は、日中国交正常化45周年記念ということで中国へ市内の中学生に行ってもらい、その中で友好を深めた。主催は、実行委員会形式で行い、参加については長野県、長野市、松本市、上田市、須坂市、飯山市である。会場等

は長野市にあるホワイトリンクを使用し、選手は、第二中学校2年2名と第五中学校3年2名の4名のチームで参加する。日程については、8月17日から8月19日の3日間、開催する予定である。

○全委員 了承

(2) 第58回上田市短詩型文学祭の作品募集について(中央公民館)

○資料3、3-1により竜野中央公民館長説明(要旨)

短詩型文学祭は、昭和32年から始まった事業で今回58回目を迎える。昨年の実績については、1,683人から応募をいただいている。応募の約86%が小中学生からの投稿があり、募集の詳細については資料3-1をご覧ください。募集期間は8月27日(月)まで、投稿料1部門につき500円(小・中学生は無料)、広報や公民館だよりに投稿用紙の配付(市内の小・中・高・大学校、上小地域の公民館等)広報うえだやホームページ、公民館等にもチラシの配布をして努めていきたい。また、入選作品については、12月2日(日)に短詩型文化祭の中で表彰し、賞状の授与を考えている。

○全委員 了承

(3) 平成30年夏休み上野が丘わいわい塾の実施について(上野が丘公民館)

○資料4により山口上野が丘公民館長説明(要旨)

夏休みの子どもの居場所づくりで始まった夏休みわいわい塾は、今年で7回目となる。今年も地域のボランティアの皆さんの支援をいただき、7月30日(月)から8月2日(木)の4日間、午前9時から午後4時まで公民館や市民の森等を会場にして開催する。今年も上野が丘公民館管内の小学生100名以上の申し込みがあったが、定員を超えたため参加者を抽選で行い決定した。この4日間は班ごとにさまざまな体験活動や地域探訪の学習が行われる。また、子どもたちとほぼ同数の地域の大人たち、中学生、高校生がボランティアとして参加して、このわいわい塾を支える。これまで事前準備として運営委員会や、ボランティア会議が何回も開催されてきた。また、学生ボランティア研修会も7月11日と25日の2回開催される。本日は保護者説明会も開催される。今年は大変な暑さが心配され、安全確保と参加される小学生、ボランティアスタッフの健康に留意して進めていきたいと思う。

○全委員 了承

(4) 市立博物館企画展の開催について(博物館)

○資料5により滝澤市立博物館長説明(要旨)

真田信之についてだが、現在の上田市原町を作ったのが信之である。それを貴重な当時の資料、「家文書」を使って紹介したい。「家文書」というとミミズの字が這っているような印象がある。きちんと活字化、現代翻訳、解説という丁寧に工夫を凝らした展示を紹介している。「家文書」からどういった情報が見とれるかというものである。

(5) 丸子郷土博物館の臨時休館について (博物館)

○資料6により滝澤市立博物館長説明 (要旨)

6月補正予算成立による丸子郷土博物館の改修の実施について、来年度以降の開館を目途とする「上田市公文書館」併設に伴い、丸子郷土博物館も同時に展示環境改善のため改修することとなった。予算については総務部(総務課)50,524(千円)、教育委員会(市立博物館)が9,001(千円)の予算である。また、改修に伴う臨時休館について、平成30年9月1日から平成31年3月31日までの期間とする。1階、2階展示室の改修、特別展示室・収蔵庫に保管する小森邦夫作品5点を、館の内外に展示し文化的環境を創出する。等身大作品3点を正面入口前庭へ設置する。1.5m内外の作品を館内に配置する。

(6) 第56回信州上田丸子夏期大学の開催について (丸子地域教育事務所)

○資料7により青木丸子地域教育事務所長説明 (要旨)

信州上田夏期大学は、昭和38年に復活して今年で56回目を迎える。主催が信州上田丸子夏期大学運営委員会、上田市教育委員会で行う。丸子文化会館小ホールを会場に参加費は無料である。8月21日(火)ジャーナリストの長谷川幸洋氏を皮切りに、資料に掲載している他4名の講演会を行っていく。毎年、政治経済、学術、環境、教育など5つの分野の講演を開催する。丸子文化協会の主催が1講座、丸子まちづくり会議の主催が1講座である。

峯村教育長

(7) 寄付の状況、(8) 行事共催申請状況、(9) スポーツ関係教育長表敬訪問、(10) 公民館だよりについては説明を申し上げないが、資料の内容を見ていただき、何かあれば質問、意見をお願いしたい。

(7) 寄付の状況

○資料8 (説明なし)

(8) 行事共催等申請状況について(学校教育課、生涯学習・文化財課、スポーツ推進課)

○資料9-1 9-2 9-3 (説明なし)

(9) スポーツ関係教育長表敬訪問について(スポーツ推進課)

○資料10 (説明なし)

(10) 公民館だより (各公民館) (説明なし)

○質疑

横関委員

先日の寄付のことで扇風機を集めたらという話だが、扇風機が足りない学校があるので集めていただきたい。

石井教育総務課長

大変ありがたい話だと思うが、集めることについては時期的に難しい。来年に向けて協議したい。

横関委員

来年もあればだが、ある資源を有効活用していただきたい。

○全委員 了承

4 その他

○全委員 了承

閉会

教育委員会会議規則第 21 条の規定により署名する。
